

樹木オリエンテーリングの樹木について（指導者用）

※説明用にご活用ください。

国立磐梯青少年交流の家

アカマツ		【幹】幹は直立するか、やや曲がっている。樹皮は白みを帯びた赤褐色で、縦長の亀甲状に亀裂が入り、剥がれる。 【葉】葉は針状の葉で長さは7～12cm、幅は約1mm。 【豆知識】アカマツの下にはマツタケが生えることがある。
イチョウ		【幹】樹皮は灰白色で厚く、縦に割れ目ができる。 【葉】葉は幅5～7cmの扇形で、中央に切れ込みがあるがほとんどないものもある。秋には美しい黄色になる。 【豆知識】イチョウの木の実「ギンナン」と呼ばれていて、ちょっと臭いけど美味しい！！
オオバボダイジュ		【幹】樹皮は紫褐色で厚い 【葉】葉は6～15cmの心円形で、裏面に淡い灰褐色の毛が密生している。葉の付け根を見ると、左右交互にずれている。 【豆知識】仏陀が大樹の下に座って悟りを得たということで、「菩提樹（ボダイジュ）」という名前がついた。
カラマツ		【幹】幹は直立していてまっすぐ伸びている。樹皮は暗褐色で長い。鱗片状に（魚の鱗みたいに）はがれ落ちる。枝は水平に張り出すが、老木になると垂れるものもある。 【葉】葉はマツより短めの1～3cm程度の針葉で、20～40本が束状に生える。 【豆知識】極寒の地（とても寒いところ）・断崖絶壁など、普通の樹木が育たないような特殊な悪条件でも生きぬくことができる生命力の強い樹木。
ケヤキ		【幹】樹皮は灰褐色で、老木になると鱗片状に（魚の鱗みたいに）はがれる。樹木の全体像を見ると扇状に広がった外観である。 【葉】葉は卵形でやや薄め。先は鋭くとがり、葉の縁は「のこぎり」の歯のようになっている。表面はやや光沢があり、ざらついていて、裏面は淡緑色。 【豆知識】巨木になると、50mを超え、日本各地で「天然記念物」に指定されているものがある。

コナラ		【幹】樹皮は灰褐色^{かしよく}から灰黒色で、縦に不規則な裂け目がある。 【葉】葉の形は細長い卵状であり、葉の縁^{ふち}は「のこぎり」の歯のようになっている。裏面は灰白色で細い毛が生えている。 【豆知識】コナラの「どんぐり」は、昔は食用として食べられていた。
コブシ		【幹】灰白色で比較的滑^{なめ}らか。皮目が横に走っている。 【葉】葉は長さ6～13cmの横に広い卵形。裏面は淡緑色。 【豆知識】「コブシ」の名前の由来、果実の形が手でこぶしを握ったときの形に似ているから。
ミズキ		【幹】樹皮は灰色で縦に浅く裂け目ができる。若枝は無毛で丸く、冬は赤みを帯びる。 【葉】葉は広卵形または楕^だ円形^{えんけい}で、葉先は鋭くとがっている。裏面はやや白身を帯びている。 【豆知識】会津の小正月の伝統行事の一つ「だんごさし」は、このミズキの木にだんごをさして飾り、豊作や家内安全、無病息災などを祈る。
シラカバ		【幹】樹皮は白色で薄い紙状にはがれる。枝は多岐に別れて伸びる。 【葉】卵の形に近い菱形もしくは三角形に近い卵形で、葉の縁^{ふち}は「のこぎり」の歯のようになっている。長さが4～10cm、幅は3～6cmほど。 【豆知識】シラカバの樹液^{じゅえき}は甘く、樹皮にアリが寄ってくる。そしてシラカバの樹液は「キシリトール（人口甘^{かん}味料^{みりょう}）」の原料になる。
スギ		【幹】樹皮は赤褐色^{かしよく}で縦に長く裂ける。 【葉】長さ1cm弱の針状の葉をたくさんつける。葉はらせん状についている。 【豆知識】スギといえば花粉症。2～4月の花粉症はスギの花粉が原因であることが多い。年々スギから出る花粉の量は増えている。
ソメイヨシノ		【幹】樹皮は暗灰褐色^{かしよく}で皮目が横長になる。 【葉】葉は卵状の楕^だ円形^{えんけい}。先は急に尖^{とが}り、葉の縁^{ふち}は「のこぎり」の歯のようになっている。葉の表はほとんど無毛だが、裏面の葉脈上、および葉柄^{ようへい}に細い毛がある。葉の付け根を見ると左右交互にずれている。 【豆知識】日本のサクラはソメイヨシノが多い。もともと一本の樹木から分けられているため、同じ地域のソメイヨシノはほぼ一斉^{いっせい}に開花する。

タラノキ		【幹】全体に鋭い「とげ」がある。幹は余り分岐せず真っ直ぐのびて、上方で枝分かれしている。 【葉】葉は卵形から楕円形。葉の縁は「のこぎり」の歯のようになっている。枝を境に左右対称になるように葉が生えている。 【豆知識】「タラの芽」は「山菜の王様」と呼ばれている。てんぷらにして食べると美味しい。
トチノキ		【幹】樹皮は灰褐色で老木では大きな厚い片となって剥離（はがれること）し、特異な紋様をなす。 【葉】葉が非常に大きく、形は付け根が細い楕円形で5～7枚の葉が掌状についている。 【豆知識】トチノキと同じ種類の「マロニエの木」は、パリの街路樹として有名。
ナナカマド		【幹】灰暗褐色で細長い皮目がある。 【葉】葉は細長い卵形または楕円形で、葉の縁は「のこぎり」の歯のようになっている。枝を境に左右対称になるように葉が出ている。 【豆知識】燃えにくい木で、「7回かまどに入れても燃え残る」というのが名前の由来だといわれている。
イチイ		【幹】皮が赤褐色で、浅く縦に裂ける。 【葉】平らで細長く、裏に黄緑色の2本線が見られる。先が尖っている。枝先にはらせん状に葉がつき、それ以外の場所では左右2列に葉がつく。 【豆知識】和名は古来この材料で高官の杓をつくったことから高官の階級の一位の位を意味する。
ホオノキ		【幹】樹皮は灰白色、きめが細かく裂け目がない。 【葉】葉は大きく長さ20cm以上にもなる。葉の形は付け根が細い楕円形で白っぽい明るい緑色。裏面は白い粉をふく。枝先ではたくさんの葉が輪状に生えている。 【豆知識】ホオノキの下には他の植物が生えにくい。これはホオノキの「根」や「落ち葉」から、他の植物の生育を妨げるような物質が出ているから。
メタセコイヤ		【幹】大きいものでは35mにもなり、皮は赤褐色で縦に裂ける。 【葉】葉は線のように細長く、長さは1～3cm、幅は1～2mm程度で葉が羽根状に生えている 【豆知識】もともと化石でしか発見されていなかったため、絶滅したといわれていたが、60年位前に「生きた木」が発見された。そのため「生きた化石」といわれている。

モミジ		【幹】樹皮は淡灰褐色^{かつしよく} 【葉】葉は直径4～7cm で 掌^{てのひら} のような形をしている。葉の付け根を見ると左右の葉が同じ所から出ている。秋には赤く紅葉^{こうよう}する 【豆知識】秋の紅葉^{こうよう}は「葉が赤くなる」というよりは、秋になると葉っぱの緑色の成分がなくなってしまい、あとに赤色だけが残るために葉の色が赤くなる。
ヤマツツジ		【幹】枝に褐色^{かしよく}の毛がある 【葉】葉は楕円形^{だえんけい}または卵状の楕円形^{だえんけい}で、長さ3～5cm。葉の表面は緑色で裏面は灰緑色。葉の両面とも毛が多い。葉の付け根を見ると左右交互にずれている。 【豆知識】ヤマツツジは鮮やかな花をつけるため、庭木としても植えられている。また「盆栽^{ぼんさい}」として鉢に植えられることもある。
レンゲツツジ		【幹】樹皮は灰褐色^{かしよく}でほぼ平滑^{へいかつ}（なめらか）。 【葉】葉は細長い楕円形^{だえんけい}で、長さ3～5cm、葉にしわがついているものが多い。葉の付け根を見ると、左右交互にずれている。また、枝先では葉が輪状に生えている。 【豆知識】この木には痙攣^{けいれん}や呼吸停止を引き起こす毒が含まれているため、草食動物も避ける。